

# 本事業による成果イメージ

## JSL評価参照枠<全体>

ステージ	学齢期の子どもの在籍学級参加との関係	支援の段階
6	教科内容と関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	支援付き 自律学習 段階
5	教科内容と関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	個別学習 支援段階
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	初期支援 段階
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	
1	学校生活に必要な日本語の習得がはじまる	

- 日本語指導担当教員による校内外での情報共有、連携の充実
  - 日本語指導担当者会による日本語指導・支援の質の持続的な向上
- ボランティア団体が実施している「放課後支援」や交流会など地域の支援との連携  
⇒ **生活言語能力の定着、学習言語能力の獲得**
- 本委託事業の対象範囲**
- 市内小・中学校の日本語指導を必要とする児童・生徒に対し、日本語指導員を配置。  
⇒ 日本語能力テストにより、対象児童・生徒の日本語能力を把握し、指導時間を決定。  
⇒ **特別の教育課程・個別の指導計画に基づく効率的かつ効果的な指導**により、初期支援段階のクリアを目指す。**(生活言語能力の獲得)**

図：「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」  
(発行：文部科学省初等中等教育局国際教育課)